

2019年度

母性看護学実習

[表紙 1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表
- 2 日々の体験記録
- 3 パンフレット類のコピー
- 4 その他（患者情報が記載されていないもの）

学生証番号：	K F
学生氏名	：
実習期間	： 月 日 ～ 月 日
実習施設名	：
担当教員名	：
指導者名	：

看護学科 3年 専門教育科目

2019年度

母性看護学実習

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 1 看護過程展開用紙一式
- 2 外来実習記録（妊婦の記録）
- 3 NICU実習記録
- 4 実習計画表
- 5 その他（患者情報が記載されているもの）

学生証番号： K F _____

学生氏名 ： _____

実習期間 ： 月 日 ~ 月 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名 ： _____

看護学科3年 専門教育科目

授業科目名：母性看護学実習

単位／時間：2単位／90時間

対象／開講：17KF／3年生 通年

担当教員：小川 景子、座波 ゆかり

ディプロマポリシーとの関連： ○該当する ◎特に該当する

- ◎ 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- ◎ 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- ◎ 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- ◎ 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- ◎ 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- ◎ 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- ◎ 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- ◎ 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

【目的】：

看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進していくための看護を学ぶ。
特に周産期（周生期）の対象理解を深め、必要な知識・技術・態度を学修する。

【中核目標】：

- I. 周産期（周生期）にある対象を理解できる。
- II. 個々の対象に応じた看護過程の展開ができる。
- III. 母性看護に必要な知識・技術・態度を修得できる。
- IV. 母性を取りまく保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・責任について理解できる。
- V. 生命の尊厳や母性について、自己の考えを深めることができる。

中核目標 I 周産期（周生期）にある対象を理解できる。

行 動 目 標

1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の特性について理解ができる。
 - 1) 妊婦の特性について、身体的・心理的・社会的側面から理解を深めることができる。
 - 2) 産婦の特性について、分娩期の身体的変化と心理的变化を中心に、理解を深めることができる。
 - 3) 褥婦の特性について、身体的・心理的・社会的側面から理解を深めることができる。
 - 4) 新生児の特性について、早期新生児期における生理的特徴を中心に理解を深めることができる。
 - 5) NICU・GCUに入院するハイリスク新生児への看護について理解を深めることができる。
2. 母性意識・母性機能の発達に関わる影響因子を考えられる。
3. 母子相互作用について理解を深めることができる。
4. 母性に関わる家族の役割・機能について考えられる。

中核目標 II 個々の対象に応じた看護過程の展開ができる。

行 動 目 標

1. 対象把握に必要な情報を収集できる。
2. 集めた情報を整理し、それまでの経過をふまえた現状の分析ができる。
3. 今後の予測をふまえ、必要な援助課題（問題点）を抽出することができる。
4. 援助課題への目標設定および具体策立案ができる。

中核目標 III 母性看護に必要な知識・技術・態度を修得できる。

行 動 目 標

1. 観察の方法・留意点が述べられる。
2. 援助の目的・根拠・留意点が述べられる。
3. プライバシーの保持・羞恥心への配慮ができる。
4. 安全・安楽に看護が実施できる。

中核目標 IV 母性を取りまく保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・責任について理解できる。

行 動 目 標

1. 母性に関わる看護職の役割・責任について理解できる。
2. 他職種との連携の重要性が理解できる。
3. 継続看護の必要性と方法が理解できる。

中核目標 V 生命の尊厳や母性について、自己の考えを深めることができる。

行 動 目 標

1. 生命誕生の過程に参加し、生命の尊厳への認識を深めることができる。
2. 生命倫理やインフォームドコンセントへの理解を深めることができる。
3. 自己の母性（父性）意識を高めることができる。
4. 母性に関わる諸問題・課題等について考え、自己の意見が述べられる。
5. 母性とは何か、自己の考えを深めることができる。

母性看護学実習評価表

学生証番号

氏名：

よい:4
普通:3
要努力:2

自己評価	臨床指導者	教員
よ 普 要 い 通 努 力	よ 普 要 い 通 努 力	よ 普 要 い 通 努 力

対象理解	1) 妊婦の特性について、身体的・心理的・社会的側面から理解を深めることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2) 産婦の特性について、分娩期の身体的変化と心理的变化を中心に、理解を深めることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3) 褥婦の特性について、身体的・心理的・社会的側面から理解を深めることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4) 新生児の特性について、早期新生児期における生理的特徴を中心に理解を深めることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5) NICU・GCUに入院するハイリスク新生児への看護について理解を深めることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	6) 母子相互作用・母性意識・母性機能の発達に関わる影響因子を考え、母性に関わる家族の役割・機能について考えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
看護過程	1) 対象把握に必要な情報を収集できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2) 集めた情報を整理し、それまでの経過をふまえた現状の分析ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3) 今後の予測をふまえ、必要な援助課題(問題点)を抽出することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4) 援助課題への目標設定および具体策立案ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
技術態度	1) 母性看護に必要な知識を修得できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2) 安全・安楽に基本的な看護技術を実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3) 対象への関心をもち、寄り添う看護の姿勢がもてる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
母性看護の役割	1) 母性を取り巻く保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・責任について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
看護観	1) 生命倫理について深めることができる。(NICUでのカンファレンス等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2) 生命の尊厳と母性について、自己の考えを深めることができる。(最終日,日々の体験記録等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
課題レポート	1) 文献の活用(文献の探索・内容への理解・適切な引用)ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2) 適切なレポートの構成(まとめ方)で、自己の考察を述べることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3) 発表および質疑応答において、積極的に意見を述べることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
事前学習	1) 事前学習ノート(春休み課題)を作成し、活用できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実習中の取り組み	1) 自主的・積極的な姿勢態度で学習ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2) 日々の援助体験からの学びや気づきを自己の言葉で述べるができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3) 他者との協調・共有学習への貢献ができる。(ペア学生とのパートナーシップ等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	4) 連絡・報告・相談等を適切に行い、学習者としての責任を果たすことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5) 健康管理に留意した適切な行動がとれる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

得点

出席日数		欠席日数		遅刻回数		早退回数		欠課時間	
------	--	------	--	------	--	------	--	------	--

自己評価	サイン _____ 印 _____									
	教育助言	サイン _____ 印 _____								
		サイン _____ 印 _____								

I. 実習方法 実習の構成・方法

1. 母性看護学実習の構成

母性看護学実習では、褥婦実習（産婦実習を含む）、妊婦実習、NICU 実習を行う。

初日の午前中に課題レポート発表会を行い、最終日には評価面接を行う。

1) 実習初日について

実習初日でも、状況に応じて分娩に参加することもあるので、事前準備を整えて実習に臨む。

時 間： 午前8：30

場 所： 伊勢原校舎 2号館 3HD 教室（その際に使用する教室をお知らせします）
ユニフォームを着用し集合する。

一日の予定： 8：30～9：00 課題レポート発表準備

（概略） 9：00～12：00 課題レポート発表・討議

13：00～16：30 オリエンテーション（病棟）受け持ち決定など

2) 必要物品

- ①母性看護学実習要項 ②母性看護学実習記録用紙一式
- ③母性臨床看護Ⅰ・Ⅱの講義ノートおよび講義時に配布した資料・テキスト
- ④事前学習ノート、参考文献など

3) 留意事項

- (1) 実習に関する資料は、必ず目を通して実習に臨む。
- (2) グループリーダーは実習初日に教員にグループメンバーの連絡表（連絡網）を2部提出する。
- (3) その他、詳細のスケジュールについては、別紙参照のこと。

2. 実習方法

1) 事前学習・課題レポート発表会について

2年生後期の母性臨床看護Ⅱにおいて課題提示した内容について、実習の中で確認・発表していく。

(1) 事前学習ノートについて

周産期および新生児の看護について各自まとめたノートを見直して、理解を深めておく。

*提出：4月の実習ガイダンス時。

(2) 課題レポート提出および発表会について

*提出：4月の実習ガイダンス時。

*発表について：一人約7分程度の発表時間とする。

発表用資料は、発表が効果的に行われるように各自で準備し、あらかじめグループメンバーに配布しておくこと。司会進行は学生が主体的に行う。発表の順序は、テーマなどを考慮し教員サイドで決定する。発表会終了後の資料は、原則として発表者本人に返却する。

（教員・指導者分の資料は、教員が実習記録類とともに最終的に処分する）

事前学習ノート作成において不正があった場合（先輩のノートを借りて自分のものとして提出するなど）、厳重処分する。

2) 臨床実習について

(1) 褥婦実習（産婦実習を含む）

1～2名の学生で1人の褥婦及び新生児または妊婦・産婦を受け持つ。

一日の流れは、受け持った対象の状況により異なるが、午前・午後を通してケアを見学参加または実施し、必要時カンファレンスや他のメンバー（受け持ちペア）との情報交換や教員・臨床指導者から個別的な指導を受ける。

(2) 妊婦実習

学生1名で1人の妊婦を受け持つ。

一日の流れは、受け持ち妊婦とともに診療の開始から終了まで行動を共にし、診療の見学や妊婦の情報収集を行い、午後は記録のまとめや教員・臨床指導者とのカンファレンスを適宜行う。

（外来の状況により、入院中の妊婦について情報収集、アセスメントする場合もある）

(3) NICU実習

原則としてNICUで看護師とともに行動する（一人の児を受け持ち看護実践の見学や参加を行う）
（詳細は別紙参照）

*カンファレンスについて

情報および学びの共有は、毎日の朝の行動計画発表時に行う。それ以外でも、上記それぞれの実習での学びが効果的になるよう適宜カンファレンスを開き、学習を共有する。原則として、1週目の金曜日と2週目の木曜日は、15:00～16:30の時間内で全体カンファレンスを開催する。

II. 実習上の留意点

- 1) 実習要項・事前学習・講義資料・文献等を活用し、実習目標が達成できるよう主体的に学習する。
- 2) 受け持ち褥婦・産婦へのケアは、必ず初日に病棟医師または臨床指導者から受け持ちの方へ紹介を受けてから開始する。
- 3) 基本的な看護技術等（血圧測定など）の実施においても、学生だけで実施しない。
必ず教員・臨床指導者・スタッフの立会いの下に実施する。
- 4) 分娩参加等で実習時間延長を許可する場合がある。時間延長を希望する場合には、その日の担当教員または臨床指導者に相談して指示に従う。（原則として、18:00頃までとする。）
- 5) 欠席は実習目標達成を著しく妨げるので、できるだけ欠席しないよう各自が健康管理に努める。
- 6) 実習場所を離れるときや、健康状態が悪い時は早めに教員または臨床指導者に申し出る。
- 7) 感冒など感染症に罹患した場合は、新生児や褥婦・産婦への感染を防ぐため、実習停止または実習内容変更などの調整をする必要があるため、実習開始前にすみやかに教員または臨床指導者に申し出る。
- 8) 欠席および遅刻する場合は、**8:00～8:15** の間に下記に必ず連絡する。

【連絡先】

①伊勢原教員室： : Tel 0463-93-1121

内線 3901. 3902

②東海大学付属病院(伊勢原) : Tel 0463-93-1121

6 A 病棟 内線8611. 8612

NICU病棟 内線8641

Ⅲ. 実習記録（提出する記録類）

実習記録物は実習場所に持参し、いつでも指導を受けられるようにする。

1. 日々の体験記録

- * 冒頭にその日の実習場所・臨床指導者名を記載する。
- * 内容は、その日の実習目標を踏まえ、学びを記述する。受け持ち対象の状態や反応などについての記述は個人情報となるので、表現などに十分留意して記載する。
- * 提出は毎朝、実習場所別に臨床指導者もしくは所定の場所に提出する。
- * 実習最終日は、評価面接を終えて考えた自分の課題および「母性」について学びを深めた内容を含める。
- * 用紙は、A4サイズのレポート用紙とする。（パソコン使用可）

2. 妊婦の記録

外来にて受け持った1名の妊婦について、情報収集・全体像の把握・アセスメントを行い、アセスメント用紙1に記載する。

3. 褥婦および新生児の記録

受け持ち褥婦及び新生児の情報収集を行い、所定の記録用紙を用いて看護過程を展開する。

- * 「褥婦の情報収集・アセスメント」は、母性記録 No 1～No 3に記載する。
- * 「新生児の情報収集・アセスメント」はアセスメント用紙2に記載する。
- * 「援助課題リスト」は看護上の問題リストに記載する。
- * 「褥婦の援助課題の展開」は看護過程展開用紙に記載する。

4. 分娩参加体験記録

- * 分娩参加したら、所定の分娩参加体験記録に記載する。（パソコン使用可）
- * 分娩参加した日の日々の体験記録は、分娩参加体験記録の裏に記載する。

5. NICU の記録

- * 2日間の実習で、中心的に観察した児についての情報をアセスメント用紙2に直接記載する。
（情報収集用紙は、使用しない）

6. 情報収集用紙

- * 褥婦等の受け持ち対象の情報（申し送り内容や検温時のメモなど）を記載する。
- * 個人情報関連の内容はメモ帳等には一切記載しない。
- * 実習期間中、バインダー（貸与）と一緒に自己管理する。
- * バインダーには情報収集用紙のみをはさみ（看護過程の記録類や実習計画表をはさまないこと）、置き忘れしないよう十分留意する。

Ⅳ. 評価

実習評価は、東海大学医療技術短期大学実習に関する細則の規定に則って、実習日数の3分の2以上出席した者を対象とする。詳細については、実習要項総説（p 4）参照のこと。

- 1) 実習要項に定める行動目標および個人の目標に対して、達成度を自己評価する。
- 2) 評価面接は、実習最終日に学生・教員・臨床指導者の3者間において、一人約20分程度実施する。
- 3) 評価表は自己評価を記入し、全ての実習記録物および事前学習ノートとともに面接に持参する。
- 4) 総合評価は、学生の自己評価と臨床指導者評価を踏まえ、教員が行う。

V. その他

- 1) 実習前に、必ず体温測定を行い、発熱がないことを確認する。風邪症状、下痢、発疹などがある場合は、速やかに教員・臨床指導者へ報告する。
- 2) 実習に関わる記録等に関する約束事項を厳守する。
(実習記録の記入場所、患者情報に関わる記録のコピー禁止、SNS利用時の注意等)
- 3) 個人もちのUSB(フラッシュメモリーなどの記憶媒体)にはパスワードを設定し、紛失、置き忘れ等ないように管理を徹底する。
- 4) 実習用の備品(学生用)の取り扱いに注意する。破損や紛失などはすぐに報告する。
- 5) カンファレンスルームでは、個人の持ち物の整理整頓を常に心がけ使用する。
- 6) 身だしなみ(髪型、爪)を整える。特に前髪はピンで留めるなど清潔感のある髪型に心がける。
- 7) 腕時計はしない(病棟では、はずす)。

NICU 実習について

【実習の位置づけ】

NICU 実習を母性看護学実習に位置づける目的は、周産期看護の一環として母子の看護について理解を深めることにある。正常に経過する新生児と、より手厚い医療・看護を必要とする新生児の両者を知ることにより、妊娠期の保健管理の必要性や、安全な分娩への援助の必要性への理解など、周産期看護の意義をより深く理解できることが期待される。また、NICU に収容される患児やその家族についての理解を深めることを通して、個々の学生の生命観や倫理観、看護観を深めることを目指す。

【目標】

- ① 患児のおかれている環境・NICU の特徴について知ることができる。
- ② 患児の特徴(周産期の状況・発達段階・病態・家族背景など)を知ることができる。
- ③ 患児がどのようなケアを受けているのか知ることができる。
- ④ 患児をもつ家族の思いを知ることができる。
- ⑤ 家族と医療者(医師・看護師・その他)の関わりを知ることができる。
- ⑥ 看護者としての支援と役割を考えることができる。
- ⑦ 生命倫理について考えを深めることができる。
- ⑧ カンファレンスを通して、情報交換・共有学習をすることができる。

【実習方法・スケジュール】

- 1) 原則として2日間、NICU 病棟で見学実習を行う。
- 2) 一日のスケジュール 次頁参照 *なお、スケジュールは状況によって変更することもある。

【実習記録】

- 1) 日々の体験記録
- 2) 受け持ち患児の記録: アセスメント用紙2を使用

情報整理の視点

- ・母体情報(妊娠中の経過)・分娩経過
- ・児の出生時の状況(在胎週数・修正週数・出生時体重・アプガースコアなど)
- ・NICU 入室後の経過(治療・検査)・現在の状況・家族背景・家族の状況など

【一日のスケジュール】

午前のスケジュール（2日間共通）	
<p>8:30～8:50 全体申し送り・学生挨拶（2日目は、スタッフのカンファレンスに参加）</p> <p>8:50～11:00 初日</p> <p>NICU オリエンテーション・患児の紹介と選定（8:50～9:10）</p> <p>受け持ち患児担当のスタッフに付き、看護ケアを見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備・バイタルサインズ測定・体重測定・清潔ケア・全身の観察 ・栄養（授乳など）・感染予防（滅菌手袋・クベースの取り扱い）・検査、診察、治療 <p>*バイタルサインズ測定、清潔ケア、授乳などについては、児の状態により学生も援助に参加（体験）をさせていただき、ハイリスク児のケアの実際を知る。</p> <p>*2日目は、児の状態・ケアの状況など、前日との違いがあるかなどについて注目して学ぶ。</p> <p>11:00～11:30 患児の記録及び成長記録などからの情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体情報（妊娠中の経過）・分娩経過・児の出生時の状況 ・NICU 入室後の経過（治療・看護・検査）・現在の状況・家族背景・家族の状況など 	
1日目	2日目
<p>11:30～12:30 NICU について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境について ・入院中の患児について ・成熟児と未熟児の違い ・周産期センターとしての役割 ・カンガルーケアについて ・成長記録について ・ひなの会について <p>12:30～13:30 昼食</p> <p>13:30～15:00 カンファレンス</p> <p>15:00～ 記録・翌日実習の準備 （6A病棟に移動）</p>	<p>11:30～12:30 昼食</p> <p>12:30～13:30 記録 カンファレンス準備（病棟内にて）</p> <p>13:30～15:00 カンファレンス 受け持ち患児の概要について、事例を まとめて発表し、学びを共有する。 *司会・進行は学生が行う</p> <p>15:00～ 記録・翌日実習の準備 （6A病棟に移動）</p>

*日々の体験記録は、学生がNICUの臨床指導者へ直接提出する。受け持ち児の記録は、2日目の日々の体験記録と一緒に臨床指導者へ提出する。

学生証番号

氏名

年齢 () 歳代 () 回妊娠 () 回経産										アセスメント										
受持時期：妊娠 週 日 or 産褥 日目 分娩予定日： 月 日																				
身長： cm 体重：非妊時 kg、(妊娠末期 kg、) 妊娠期間中 体重増加量 (kg)																				
本人	ABO 型	RH 型	HB 抗原	HB 抗体	梅毒 反応	トキソプラス マ抗体	風 疹 抗体	その他		血液型	RH 型									
	職業： 復職の予定										夫	職業：								
健康歴	月経歴	初経： 歳、経過：順調・不順 持続期間： 日間 量：多・中・少 月経時障害：有・無 (内容：)																		
	結婚	未婚・初婚・再婚 結婚時期： 年 月 () 歳																		
	妊娠歴	回	年月日	年齢	週数	分娩の状況	児体重	性別	健否	経過										
	既往歴	アレルギー：有・無 () 常用薬：有・無 ()																		
妊娠歴	初診： 週 健診																			
	最終月経： 年 月 日 日間 受診状況：定期的・不定期																			
	つわり：なし・あり (妊娠 週～ 週まで) 胎動初覚： 年 月 日 (妊娠 週) 身体的経過概要 (胎児の情報も含む)																			
生活習慣	嗜好品	妊娠前 (収集できる範囲で良い)				妊娠中														
		アルコール	有・無 (杯/日)			有・無 (杯/日)														
		喫煙(本人)	有・無 (本/日)			有・無 (本/日)														
	喫煙(夫)	有・無 (本/日)			有・無 (本/日)															
	睡眠	平均 () 時間程度				平均 () 時間程度														
		食事				規則的・不規則 (食/日) 規則的・不規則 (食/日)														
排泄	排尿				回/日 回/日															
	排便				規則的・不規則 (回/ 日) 規則的・不規則 (回/ 日)															
家族に関する情報	家族構成									妊娠・分娩によって生じる家族の変化										
	対象が最も頼りにしている人 (続柄)									本人 夫 その他の家族 経済的状況： 家計を支えている人										

今回の分娩経過	分娩様式：自然・誘発・吸引・帝王切開 (適応：)				アセスメント	
	初発陣痛：	月	日	時	分	出血量： g
	破水 (自然・人工)：	月	日	時	分	会陰切開：無・有 (左・右・正中) 縫合 針
	子宮口全開大：	月	日	時	分	会陰裂傷：無・有 (Ⅰ度・Ⅱ度・Ⅲ度) 縫合 針
	発露：	月	日	時	分	その他の創傷：
	児娩出：	月	日	時	分	
	胎盤娩出：	月	日	時	分	
所要時間	I 期	II 期	III 期	合計		脱肛：無・有 (程度)
				時間 分		
経過中の産婦の状態(帝王切開術の場合の経過など)						
新生児の状態	性別：(♂・♀) 単胎・多胎 生産・死産	胎児付属物所見		娩出様式：(自然・用手剥離)		
	頭位・骨盤位・その他 ()			大きさ： cm × cm		
	アプガールスコア：1分後 () 点 5分後 () 点			厚さ： cm		
体重 g 身長 cm、 頭囲 cm 胸囲 cm			重さ： g			
産瘤：無・有 (部位)			長さ： cm			
頭血腫：無・有 (部位)			巻絡：無・有 (回)			
分娩時損傷：無・有 (部位)			その他 (羊水・卵膜の情報など)			
出生後の特筆すべき経過 (BS 値など)						
産褥経過	*乳房の型： I 型 ・ IIa 型 ・ IIb 型 ・ III 型					
	*乳頭の形態： 正常乳頭・裂状乳頭・扁平乳頭・陥没乳頭					
	*妊娠中の乳房管理について					
*母乳栄養に対する褥婦の意識						
*前回の児の母乳栄養の状況						
*児の状態と褥婦の授乳行動						

学生証番号

氏名

		産褥 日	産褥 日
一般状態 バイタルサイン 浮腫の状態			
創部の状態 肛門周囲の状態 疼痛の有無/程度			
子宮収縮の状態	高さ		
	硬さ		
	悪露		
	後陣痛		
食事・水分の摂取			
排泄	尿		
	便		
心理状態 愛着行動 不安言動など			
薬・治療など			
検査・処置 保健指導等			
乳房の状態	乳房緊満		
	乳管開口数		
	分泌状態		
	トラブルの有無 内容・程度		
アセスメント			

学生証番号

氏名

		産褥 日	産褥 日
一般状態 バイタルサイン 浮腫の状態			
創部の状態 肛門周囲の状態 疼痛の有無/程度			
子宮収縮の状態	高さ		
	硬さ		
	悪露		
	後陣痛		
食事・水分の摂取			
排泄	尿		
	便		
心理状態 愛着行動 不安言動など			
薬・治療など			
検査・処置 保健指導等			
乳房の状態	乳房緊満		
	乳管開口数		
	分泌状態		
	トラブルの有無 内容・程度		
アセスメント			

学生証番号

氏名

		産褥 日	産褥 日
一般状態 バイタルサイン 浮腫の状態			
創部の状態 肛門周囲の状態 疼痛の有無/程度			
子宮収縮の状態	高さ		
	硬さ		
	悪露		
	後陣痛		
食事・水分の摂取			
排泄	尿		
	便		
心理状態 愛着行動 不安言動など			
薬・治療など			
検査・処置 保健指導等			
乳房の状態	乳房緊満		
	乳管開口数		
	分泌状態		
	トラブルの有無 内容・程度		
アセスメント			

健康認識・健康管理		自己像・自己実現		アセスメント
母性観・育児観		性・生殖		
退院後の生活に関する情報				
役割・関係 ・ その他	退院先： 産後の手伝い：無・有 育児家事支援者と援助内容：（誰が、何をどの程度手伝ってくれるか）			
	これまでの育児経験・関心 児および育児に関する不安・心配 育児・家事に対する夫の認識 その他			

分娩参加体験記録

月 日 ()

学生証番号

氏名

1. 参加した分娩の概況(経膈分娩or 帝王切開分娩、初産婦or経産婦)

2. 分娩参加体験からの感想

3. 分娩期の看護(産婦の特性・心理的变化・精神的变化・看護者の役割など)について、学んだこと。

4.日々の体験記録(分娩参加以外の実習内容について振り返る)

情報とその意味 (解釈・分析)

生活行動 様式	
健康認識 健康管理	
呼吸・循環 体温調節	
栄養・代謝	
排泄	
活動・休息	
皮膚粘膜の 保全	
性・生殖	
感覚知覚 伝達	
自己像・ 自己実現	
役割・関係	
その他	

アセスメント用紙2 (対象の全体像)

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名



*関連図・図・絵などを用いて記載する

日 情報 (初期データ・追加データ) 実施の事実・結果・対象の反応	日 アセスメント (実施の評価)	日 問題点	日 患者目標	日 具体策
			目標の達成状況	

実習計画表

週間実習目標	月 日 ()		月 日 ()	
	日々の目標			
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
	実習内容			
	実習 週 / 週	全実習 週 / 週	学生氏名 :	受持患者 :

実習計画表

	月 日 ()		月 日 ()		月 日 ()	
日々の目標						
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
実習内容	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
実習 週 / 週		全実習 週 / 週		学生氏名 :		受持患者 :